



特集 **八ヶ岳**
大工集団くじらぐみ

自然豊かな土地に移住してゆったりと過ごしたい、
そんな夢を持つ人は少なくないのではないだろうか。
人気のエリア、八ヶ岳での家づくりをサポートする
「大工集団くじらぐみ」こと(有)高橋建築舎の仕事を紹介する。

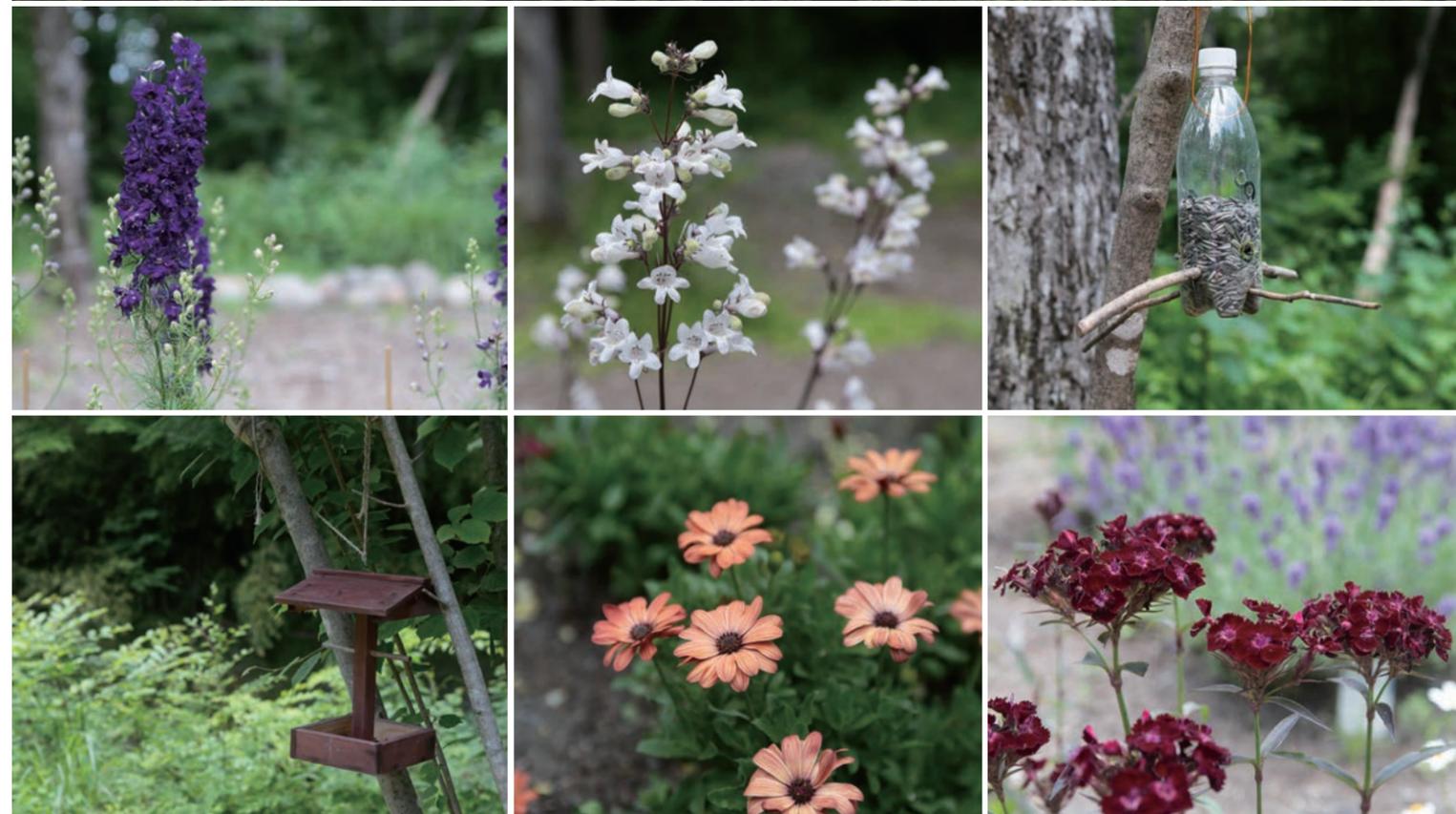


山梨県北杜市 N邸
森の中に
設けた
終の住処

設計・施工 (有)高橋建築舎
写真 畑耕 文 太田花奈

ずっと理想としていた老後の家は「森の中のログハウス」。
山での田舎暮らしに憧れたNさん夫妻が土地と依頼先を探る中で辿り着いたのは、八ヶ岳を知り尽くした工務店が、国産材でつくる伝統工法の住まいだ。

1 N邸外観。カラマツの板張り
と白い漆喰のコントラスト
が美しい。 2 蹄鉄で飾った
手づくりのサイン。 3 深い
土庇の下にある土間では、日
差しの強い季節でも涼をとれ
る。





3



1



4

1 キッチンからリビングを見る。正面の掃き出し窓から庭に出られる。2 リビングの上部は吹き抜け、ダイニングの上部はロフトとなっている。3・4 末口1尺の梁がダイナミックに架かる。5 収納棚を造作したキッチン。



5

八ヶ岳の暮らしを 知り尽くす工務店

N邸を手がけた「大工集団くじらぐみ」を称するのは、北杜市に本社を構える大工工務店の高橋建築舎だ。同社は不動産業「北杜不動産」と建設業の両方を行うことで、家づくりを土地探しからサポートしている。

夫妻は、土地の相談とあわせて本社の敷地内にある高橋敦社長の自宅兼モデルハウスを見学。無垢の木でつくられた伝統工法の建物をひと目見て、心惹かれたという。「はじめに理想としていたログハウスや広いウッドデッキはこまめな手入れが必要だとわかり、考え

を変えようと思っていました。そんな中でメンテナンスの手間が少なく木々の息吹を感じられる伝統工法の家を見学し、これだと思いました」（ご主人）。

「まず建物が心地よかったですし、地域の気候や風土について詳しく教えてくれた社長の親身な対応と人柄も印象に残りました」と奥さん。その後、ふらりと立ち寄った現地のカフェで依頼の決心を固めたのだと続ける。「偶然立ち寄ったそのお店もくじらぐみが手がけた建物だったんです。マダムにそこなら間違いなくおすすめです。その言葉に背中を押されました。よい偶然が重なって、家を建てることができました」。

木の香りに包まれる 空間で 穏やかな時を過ごす

緑に触れ、鳥と戯れる 田舎暮らしに憧れて

八ヶ岳南麓。周囲には豊かな白樺林が広がる敷地にちよこんと佇む、切妻屋根の平屋風の建物がNさん夫妻の住まいだ。家が完成したのは1年余り前のことで、夫妻は出身地の東京にある家とこの家を行き来しながら、老後の暮らしの支度をしている。

「森の中にログハウスを建てて、広いウッドデッキでお茶をしたり、山歩きに出かけたり。絵に描いたような田舎暮らしをしたいと考えていました」とご主人。家づくりで特に時間をかけたのは土地探しで、当初希望していた長野県軽井

沢から徐々に視野を広げる中で、ここ八ヶ岳に辿り着いたという。「もともとは軽井沢の中古物件の購入を検討していたのですが、コロナ禍でリモートワークが普及したことによる移住ブームで手が出ないほどに値上がりしていました。そこで、ほかの地域も見てもいいことにしたんです」。

一方、奥さんは「八ヶ岳には山歩きでもよく来ていたので馴染みがありました。それで、ある時に気になる土地を見つけて。看板に書いてあった北杜不動産をアポイントも取らずに訪ねてみたんです。それがくじらぐみに家づくりをお願いしたきっかけになりました」と話す。



2



1 ダイニングの庭に面した位置に配したデスクコーナー。 2 ご主人の楽器やアートが並ぶロフト。息子さん一家が訪ね来た時の居室としても活用する。
 3・4・5 アンティーク雑貨、奥さんのアクセサリ、ご主人が25年かけて集めたモデルカーなどのコレクションがずらり。 6 敷地を整えるのにあたり伐採した木々を薪に活用している。 7 バーベキューコーナーに置いたガーデンチェア。 8・9 石を並べて手づくりした花壇。宿根草などを植えてみており、成長が楽しみ。 10 ドローンで撮影。林に囲まれた広い敷地にコンパクトな住まいが佇む。 11 左から高橋建築舎の高橋敦社長、Nさん夫妻、高橋建築舎で設計を担当する社長夫人の息子さん。



所在地：山梨県北杜市 家族構成：夫婦
 敷地面積：837㎡ 延床面積：96.88㎡（1階78.25㎡ 2階18.63㎡）
 竣工：2022年4月（工期2021年6月～2022年4月）
 設計・施工：(株)高橋建築舎 ☎0551-38-8151
 構造形式：木造軸組工法
 主な外部仕上げ：
 屋根＝ガルバリウム鋼板長尺葺き 軒天井＝スギ板現し
 外壁＝カラマツ板目板張り厚15mm（桁下）、珪砂漆喰（桁上）
 主な内部仕上げ：
 天井＝スギ化粧板現し厚12mm 壁＝珪砂漆喰
 床＝クリ無垢板厚15mm

国産木材使用量 (有)高橋建築舎：23.2㎡ 一般工務店：8.52㎡
 二酸化炭素固定量 (有)高橋建築舎：13.62t-CO₂ 一般工務店：5.01t-CO₂

イラスト＝本橋靖昭

特集 八ヶ岳 大工集団くじらぐみ



窓が切り取る風景がシンプルな住まいをいろいろ

こうして完成したのは、梁や垂木を現しにした無垢材の木組に支えられる空間。玄関とリビングをつなぐ土間は、打ち合わせでのスケッチの段階から気に入っていたもの。靴箱やパントリー、キッチンとも行き来できる設計となっており、山での生活を快適にする。また、リビングに面した箇所は、大きなガラス戸を介して庭へ出ることができる。「土庇の下の土間も玄関土間と一体につくっていただきました。ウッドデッキのような手入れが要らず、想像以上に使いやすいです」

（ご主人）。この土庇の下に置いたベンチに腰をかけて晩酌するのが日課になったという夫妻。昨夏には息子さん一家が訪れ、バーベキューや庭でのキャンプを楽しんでいたと嬉しげに語る。今後やってみたいことを尋ねると、奥さんは「自然を感じてのんびり過ごせれば、それで十分」。ご主人は「敷地の整備で手一杯で肝心の山歩きができていないので、周辺を散策したいです」と答えてくれた。ゆったりと話す夫妻の姿が、自然の中にある住まいをよりいっそう豊かに感じさせた。



山梨県北杜市 モデルハウス「かやおいの家」

八ヶ岳の極寒に耐える

土壁モデルハウス

設計・施工 (有)高橋建築舎
写真 畑耕 文 太田花奈

高橋建築舎本社敷地内には、社長邸のほかにもう1棟同社のめざす家づくりを伝える建物がある。蔵を模してつくった「かやおいの家」は、手刻みの仕事とともに、土壁の心地よさを体感できるモデルハウスだ。



1 掻き落として仕上げた黄身色の土壁が印象的なモデルハウス外観。 2 敷地入り口にある大工集団くじらぐみの看板。 3 モデルハウスの室内から玄関を見る。小窓を配したデザインは高橋教社長のお気に入り。「教会のようでいいでしょう？」。



特集 八ヶ岳
大工集団くじらぐみ



3



1・5・6メインとなる1階の空間。冬の寒さ対策として、土壁に加えて断熱材のセルローズファイバー、床暖房を採用している。2デスクコーナーに配したピクチャーウィンドウ。3見事な木組。施工は自社大工の田村敦さんが担当した。4ムラなく塗られた土壁。「生活しやすいように角の面を大きくしました」(加村さん)。72階和室。8土壁のサンプル。

地域材と土壁の 室内に 清々しい空気が流れる

八ヶ岳の気候に似合う 自然素材の家づくり

高橋建築舎・社長の高橋敦さんは山梨県生まれで、この道40年の大工でもある。東京から八ヶ岳に拠点を移し、高橋建築舎を設立してから約20年。設計を担当する妻の晃子さんと二人三脚で木の家づくりを続けている。「当初はログハウスの全盛期で、米松を使ったティンバーフレームの家を多くつくっていました」と高橋さん。現在の伝統工法の家づくりへとシフトしたきっかけは、2009年の「チルチンびと」地域主義工務店の会への加入だったという。「材や構造へのこだわりはず



大工と左官の 技が生きる静謐な空間

本格的な木摺り下地の土壁を施工するのにあたっては、「チルチンびと」地域主義工務店の会」に加盟する愛知県の勇建工業の協力を得た。施工のポイントについて、勇建工業の社長で左官職人の加村義信さんは「まず地域材を使いたいとのこと、木摺り下地は弊社でよく用いる杉ではなく唐松でつくりました。また、山梨県の厳しい冷え込みに耐える仕上げも提案しています」と説明する。モデルハウスに一步入ると、よく晴れて暑い外の空気から一変。エアコンなしでもひんやりとした

っと持っていました。入会を機に素材選びを徹底するようになりました。また、各地の工務店とのかかりの中で手刻みや職人の仕事を大切にしたいと改めて感じました。その後は、本社敷地内に高橋社長の自邸を兼ねるもの、蔵を模したものと2棟のモデルハウスもオープンした。いずれも「チルチンびと仕様の家」の基準を満たしているが、後者についてはさらなるポイントがある。「土壁のモデルハウスをテーマに計画しました。地元材に加え、本物の土壁を取り入れています。夏涼しく、冬は暖かく、より快適に過ごせる建物をつくらうと思ったんです」。

清々しさを感じることに驚く。これは、中塗り下地の効果だという。「発酵させた土で中塗りをしたおかげで、においのない気持ちのいい空気が流れていると思います。また、仕上げ使ったにスサの多い豊田市保見町の土は、調湿性が高く、静かな空間を実現しています」(加村さん)。こだわりの土壁は、小さな窓から入る光をやわらかく広げている。「左官の施工中は、こんなにくさんよく綺麗に塗ってくれるなど入隅のひび割れもないし、感激しています」(高橋さん)。大工と左官のコラボレーションで生まれたモデルハウスの心地よさをぜひ現地で体感して欲しい。



特集 八ヶ岳

大工集団くじらぐみ

技の継承 くじらぐみの

仕事場

写真：畑耕 文：太田花奈

すべて手刻みの伝統工法の家づくりをめざしてきた高橋建築舎。それを実現し、持続させるための課題となったのは、ていねいな手作業と効率のよさを両立すること。自社大工が腕を磨く、大工集団くじらぐみの仕事場を訪ねた。



職人が腕を振るう手刻みと自然素材の家づくりを持続するために、高橋建築舎・大工集団くじらぐみでは大工の育成にも積極的に取り組んでいる。自社大工はこの10年ほどの間で5名の棟梁、2名の見習いからなる計7名に増えた。50代、60代から10代、20代まで幅広い人材が在籍している。

一般住宅から寺社仏閣まで手がけてきたというベテラン大工の辻孝仁さんは「いろいろな仕事をしてきましたが、無垢材を扱い、手刻みでつくることにこだわられる点

に惹かれてくじらぐみに転職しました」。一方、2カ月前に入社したばかりの見習い大工・小松洋夢さんは「家業が大工で、いずれはそれを継ぐ予定です。技術をしっかりと学べる場として高橋建築舎を選びました」。

手刻みができるようになるまでの修業期間は約5年だと高橋さんは話す。自社で大工を抱え、育てあげるのは決して簡単なことではなさそうだ。「すべて手刻みで家をつくりうと方向転換した際、いかに効率よく材を刻めるかが課題になりました。それをクリアするために大工の育成は重要だと感じて注力しています」（高橋さん）。

取材日は暑さが厳しかったが、大工たちは生き生きとして作業していた。世代を超えて声をかけ合う姿も印象的。同社の家が住まい手を笑顔にする理由は現場の健全なムードにもあるのかも知れない。

- 1 墨付けを行う後藤悠平さん。
- 2 薄く途切れていないかなくず。
- 3 モデルハウス「かやおいの家」の施工を一任された田村敦さん。
- 4 笑顔も見られた作業風景。手前から見習いの小松洋夢さん、ベテラン大工の田辺悟実さん。
- 5 造作材の表面を整える様子。手前から横森成さん、石原悠暉さん。
- 6 法被の背面にはくじらぐみのロゴ。

特集 八ヶ岳 大工集団くじらぐみ



石原悠暉さん (19)
大工歴2年



後藤悠平さん (27)
大工歴7年



横森成さん (24)
大工歴6年



小松洋夢さん (20)
大工歴2カ月



田辺悟実さん (55)
大工歴35年



辻孝仁さん (65)
大工歴49年



田村敦さん (34)
大工歴14年



高橋建築舎
高橋敦社長 (69)